

平成20年度 科学研究費補助金（特別推進研究）
事後評価結果

研究課題名	ルイス酸・遷移金属触媒を用いる環境調和型分子変換プロセスの開拓	研究代表者名 (所属・職)	山本 嘉則（東北大学・理学研究科・教授）
-------	---------------------------------	------------------	----------------------

研究課題の総合的な評価

該当欄		評価基準
	A+	期待以上の研究の進展があった
○	A	期待どおり研究が進展した
	B	期待したほどではなかったが一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い

評価意見

研究代表者のリーダーシップの下、順調に所期の目的が果たされており、期待どおり研究が進展した。

ルイス酸を用いる合成反応は、研究代表者が長年にわたって開拓・発展させてきた有機化学における重要な研究課題である。また、遷移金属触媒は分子変換反応を行うための重要な触媒である。これらの分野において、本研究課題では(1)ルイス酸の酸強度がアセチレン類等の電子吸引性パイ共役分子の配位により増加することを見出し、(2)金化合物を触媒とする新規触媒反応を開発し、(3)ビス- π -アリルパラジウム錯体においてアリル基に対する求核反応剤、求電子反応剤の反応において従来の反応とは異なる新しい形式の反応を見出し、(4)巨大な分子構造を持つ海洋性天然化合物の合成を完成させる等、順調に多くの成果を出した。これらの研究成果は一流の国際学術雑誌に多く発表されており、また20数件の国際会議における招待講演で発表されている。さらに、関連する特許も出願されるなど、研究成果の公表等の点でも申し分ない。